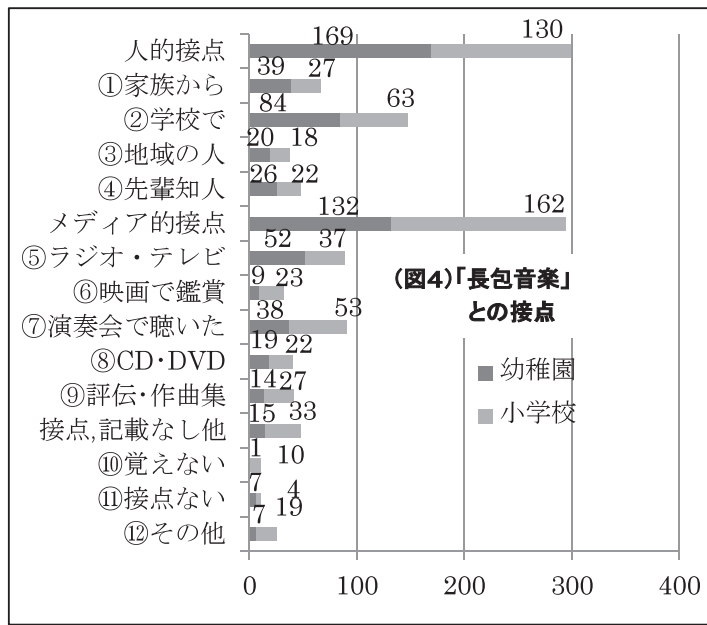


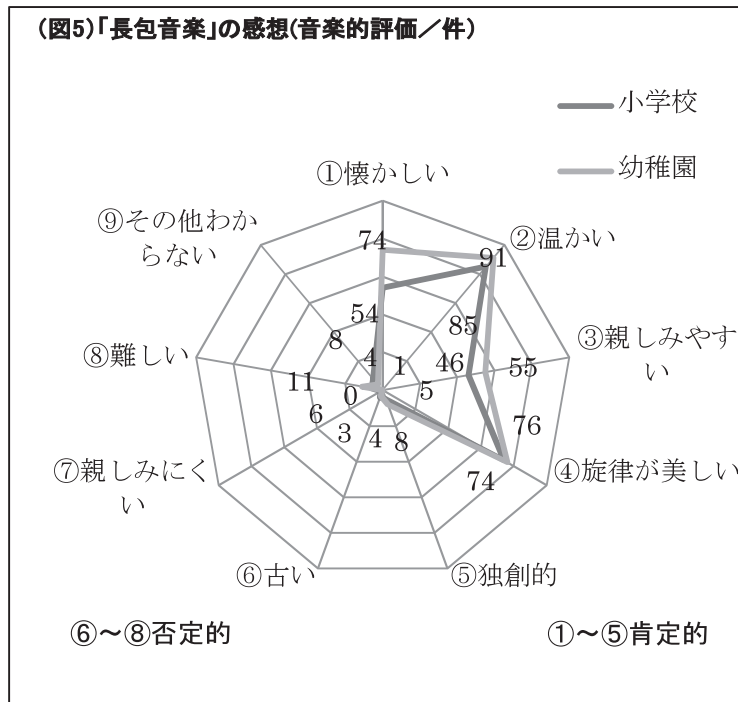
【図 4】「宮良長包音楽」との接点



ポイント 8. 「宮良長包音楽の感想」(音楽的評価)

「長包音楽」の感想(音楽的評価)は、幼稚園は、「温かい」91件(30.0%)、「旋律が美しい」76件(25.0%)、「懐かしい」74件(24.3%)、「親しみやすい」55件(18.1%)等である。

【図 5】「宮良長包音楽」の感想



小学校では、「温かい」85件(32.2%)、「旋律が美しい」74件(28.0%)、「懐かしい」54件(20.5%)、「親しみやすい」46件(17.4%)等となっている。

幼稚園、小学校のいずれも、「温かい」「旋律が美しい」「懐かしい」が、同じく上位3位で

ある。両者とも、肯定的感想が圧倒的に多く、「長包音楽」に好感を持っていることがわかる。

反面、幼稚園では「難しい」11件、「古い」3件、小学校では「難しい」6件、「古い」4件、「親しみにくい」1件と少数あり、保育（授業）に導入しにくい一面もあることがわかった。

【図5】【表7】

ポイント9. 「宮良長包音楽」を学校教育に取り入れる必要性

「宮良長包音楽を学校教育に取り入れる必要性」は、「はい」が幼稚園71件（46.4%）、小学校89件（74.8%）で、導入への意識度は、小学校が高い。必要性の理由として「郷土愛」が幼稚園65件（42.5%）、小学校84件（70.6%）でトップ【図6】、自由記述にもアイデンティティーに関する記載が多く見られた。

【図6】「宮良長包音楽」を学校教育に取り入れる必要性と理由

（図6）「長包音楽」を学校教育に取り入れる必要性と理由

必要 / (順位：理由)	幼稚園(153件)	小学校(119件)	中学校(69件)	高校(27件)
「はい」	71件(46.4%)	89件(74.8%)	58件(84.1%)	24件(88.9%)
(1位：郷土愛)	65件(42.5%)	84件(70.6%)	56件(81.1%)	21件(78.8%)
(2位：長包音楽継承)	38件(24.8%)	48件(40.3%)	30件(43.5%)	14件(52.9%)
(3位：音楽の多様性)	27件(17.6%)	32件(26.9%)	28件(40.6%)	5件(18.5%)
「いいえ」	6件(3.9%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)
「わからない」	69件(45.1%)	29件(24.4%)	11件(15.9%)	3件(11.1%)

続いて、幼稚園、小学校とも「長包音楽の継承」「音楽の多様性」が上位を占めている。

参考として、中学校、高校のデータを見てみると、「取り入れる必要性」に対して「はい」の回答は、中学校58件（84.1%）、高校24件（88.9%）となっており、幼稚園・小学校・中学校・高校になるにつれて上昇している。

理由について、中学校の場合、1位「郷土愛」、2位「長包音楽の継承」、3位「音楽の多様性」となっており、高校も「郷土愛」「長包音楽の継承」「音楽の多様性」で順位は同じである。つまり、幼稚園・小学校・中学校・高校を経るにつれて、「必要性」が上昇し、理由も同じ結果であることがわかる。これは、幼稚園、小学校で「宮良長包音楽」の基礎を獲得し、中学校、高校を経るにつれて、「長包音楽」の学習に関心を持ち、より深めていくことを示している結果ではないだろうか。

また、幼稚園では、「わからない」の回答も多く69件（45.1%）、「はい」の71件（46.4%）と拮抗している。この結果は、実践への可能性を示唆する大きなヒントになるのではないだろうか。

「必要性」に「いいえ」の回答は、幼稚園は6件あるが、小学校、中学校、高校は0件である。自由記述では、「宮良長包の音楽に興味を持っている若い世代が少なすぎる」「子ども達に馴染みが薄く取り入れるのは難しい」「昔はよく歌われていたと思うが今は聞かれなくなった」など導入の難しさを示す回答があり^(註6)、反面「保育園、幼稚園、小学校で保育等に取り入れれば続けられる」など、幼児教育から「宮良長包音楽」に親しむ環境があれば継承されるという実践可能なヒントもあった。【表8】

ポイント 10. 「宮良長包音楽」の認知度

長包音楽の認知度は、1位の「えんどうの花」が、幼稚園（147件／認知度96.1%）、小学校（118件／認知度99.2%）で、2位「安里屋ユンタ」は、幼稚園（144件／認知度94.1%）、小学校（112件／認知度94.1%）と圧倒的に高い。【図7】

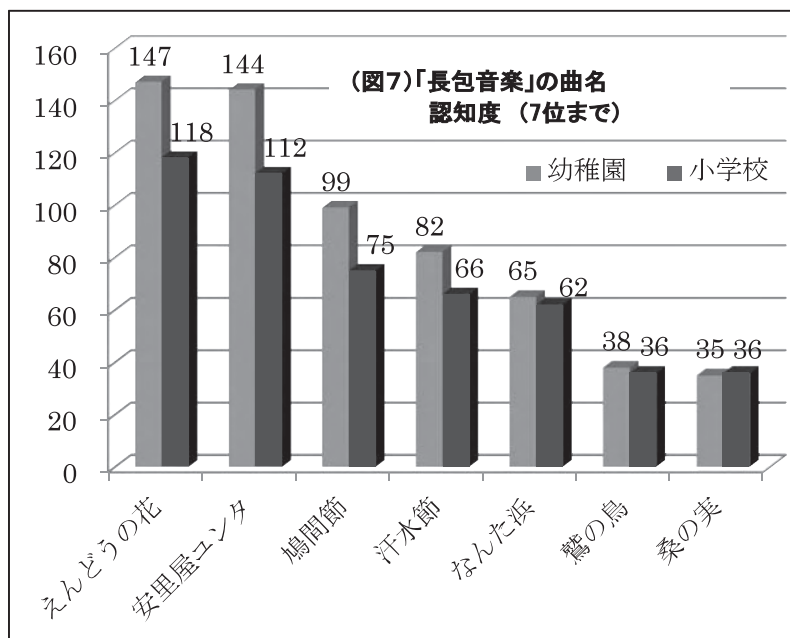
この2曲は、ポイント4の保育（授業）の内容、②の使用曲名においても幼稚園、小学校とも最も活用度が高く、「長包音楽」ではいかにポピュラーな曲であることを示している。

参考までに、中学校、高校をみて見ると、「えんどうの花」は中学校（67件／認知度97.1%）、高校（27件／認知度100.0%）、「安里屋ユンタ」が中学校（56件／認知度81.2%）、高校（25件／認知度92.6%）で最も活用度が高く、幼稚園、小学校と結果は全く同じである。

また、幼稚園、小学校とも4位の「汗水節」も認知度が高く、幼稚園（82件／認知度53.6%）、小学校（66件／認知度55.5%）、さらに中学校は6位で（36件／認知度52.2%）、高校は幼稚園、小学校と同じ4位で（19件／認知度70.4%）となっている。

後述するIV-1の実践事例に示すように、「汗水節」を題材に、幼少連携に道德教育とクロスして指導している例も見られた。

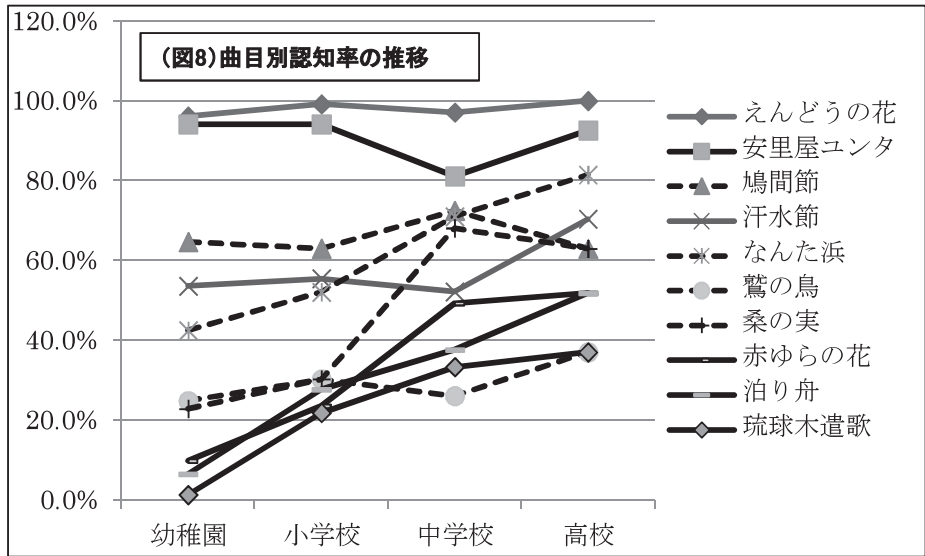
【図7】「宮良長包音楽」の曲名認知度（7位まで）



ポイント 11. 曲目別認知率の推移

ポイント10によると、幼稚園、小学校とも、上位は「えんどうの花」「安里屋ユンタ」「鳩間節」「汗水節」であるが、中学校、高校もほぼ同様で、曲目別認知率とその推移は、【図8】に示され、幼稚園から高校を経るにつれ、曲目別認知率の推移が上昇していることがわかる。【表9】

【図8】 曲目別認知率の推移



「えんどうの花」「安里屋ユンタ」は、幼稚園、小学校、中学校、高校で共通して80.0%から90%以上で高率であるが、「赤ゆらの花」「泊り舟」「琉球木遣歌」は、幼稚園では極端に低く、小学校・中学校になるにつれ次第に教材活用が高くなっている。つまり、これらの曲は、幼児教育では教材化の工夫が必要になってくるだろう。【前掲に同じ表9】

IV. 「宮良長包音楽」の幼少連携の実践事例

幼少連携の実践は、八重瀬町立具志頭幼稚園及び具志頭小学校、石垣市立まきら幼稚園及び真喜良小学校、糸満市立糸満幼稚園などがアンケートで見られた。

ここでは、具志頭幼稚園及び具志頭小学校の実践事例を取り上げ、まきら幼稚園及び真喜良小学校は、聞き取り調査と資料調査の内容を紹介する。また、糸満幼稚園はアンケートに基づき聞き取り調査を行った実状を記述する。

IV-1. 具志頭（ぐしかみ）幼稚園及び具志頭小学校

沖縄県八重瀬町立具志頭幼稚園【写真1】【写真2】と、同・具志頭小学校【写真3】の実践事例では、「汗水節の心の行動デー」というコンセプトで、宮良長包作曲の「汗水節」をBGMで聴きながら清掃をしている様子である。園児は毎週月曜日の朝30分間、園庭を掃除する。小学生は年間行事として9月頃から位置付け、地域の清掃を行っている。

「汗水節」は、作詞者が地元、具志頭村（ぐしちゃん）出身の「仲本稔」で、ゆかりの地であることや、歌意が「勤勉」「貯蓄」「学問」「社会奉仕」の大切さを歌った教訓歌であること等、幼小連携で、道徳教育とクロスして「長包音楽」を生かした実践事例である。